

秋田県公文書館 平成20年度企画展

武士の日記を読む

■と き 【前期】平成20年 8月2日(土)～9月7日(日)
【後期】 10月24日(金)～11月20日(木)

■ところ 秋田県公文書館 特別展示室



Akita Prefectural Archives
秋田県公文書館

はじめに

秋田県公文書館は、貴重な公文書や古文書、県機関・各市町村による行政刊行物のほか、全国各地の公文書館・大学・研究機関の専門雑誌などを所蔵しています。

これらの資料を、県民のみならずをはじめ、多くの方々に活用していただくために、公文書館では企画展の開催、講座の開催、翻刻・刊行事業など、さまざまな普及活動に力をいれています。

今年度の企画展では、公文書館が所蔵する秋田藩士の日記を中心に紹介します。

江戸時代に藩士によって記された日記は、後世に職務の参考として利用されたり、歴史編纂事業に活用されるなど、公的な性格を持ちました。藩士の公務内容や活動の様子とともに、当時の藩や国内の情勢をうかがうこともでき、多くの情報を含んだ基本資料といえます。

一方では、日常の様子を書き残した私的な性格の強い日記もあり、家族との生活や、学問・武芸などを通じた武士の交流の様子などをみることもできます。

公文書館では、これらの基本資料を多くの方々に活用していただくために、翻刻・刊行事業にも取り組んでいます。今回の展示では、この取り組みについてもあわせて紹介しています。

展示をご覧いただいた方々に、資料について関心を高めていただき、また一層の資料活用につながる機会としていただければ幸いです。



写真解説

「梅津憲忠肖像」

梅津政景の実兄である梅津憲忠^{のりただ}は、初代秋田藩主佐竹義宣^{よしのぶ}のもとで、家老として藩政全般を担当しました。

大坂冬の陣では、勇猛に戦う姿から「佐竹家の黄鬼」と称され、将軍秀忠^{ひでただ}からは太刀^{たち}を賞賜されました。

この肖像の作成時期については不明ですが、梅津家家臣の一部治兵衛が江戸で購入し、嫡子貴蔵が文政9年（1826）に献上した肖像であることが、裏書きに記されています。

梅津政景日記

梅津政景（1581～1633）は、初代秋田藩主佐竹義宣の側近として、院内銀山奉行・久保田町奉行・勘定奉行・家老などを歴任し、実兄である憲忠とともに活躍しました。

日記は自筆原本24冊・写本1冊の全25冊で、慶長17年から寛永10年まで22年間の内容が記されています。

秋田藩成立期の鉱山社会や久保田城下町の成立過程をはじめ、藩主を中心とした支配体制が整備される状況や、将軍・幕府重臣との交際関係など幕藩体制確立期の大名としての義宣の動向が記されています。

東京大学史料編纂所編「大日本古記録 梅津政景日記」全9巻として岩波書店より刊行されました。

昭和41年には秋田県有形文化財に指定されました。



和暦	西暦	梅津政景の略歴	秋田・国内のできごと
天正 9	1581	誕生（1歳）	
慶長 5	1600		関ヶ原の戦い
慶長 7	1602	憲忠と秋田遷封に従う（22歳）	佐竹義宣、秋田遷封
慶長 8	1603	譜代重臣河井忠遠を刺殺（23歳）	徳川家康、征夷大將軍就任
慶長14	1609	院内銀山奉行に就任（29歳）	
慶長17	1612	知行200石となる（32歳）	大坂冬の陣
慶長19	1614	惣山奉行に就任（34歳）	徳川家康死去
元和元	1615	大坂夏の陣に出陣（35歳）	
元和 2	1616		最上氏改易
元和 4	1618	津軽藩との境目交渉を担当（38歳）	本多正純、横手に移送
元和 5	1619	家老格となる（39歳）	
元和 8	1622		梅津憲忠死去
寛永元	1624		佐竹義宣死去
寛永 7	1630	家老・町奉行に就任（50歳）	
寛永 8	1631	知行3,000石となる（51歳）	
寛永10	1633	死去（享年53歳）	

日記記載期間

エピソード 徳川家康の死

元和2年（1616）3月、徳川家康は駿府（現・静岡市）で病床についていました。

政景は、藩主義宣とともに駿府に向かい、天海など幕府要人を訪れて、家康の病状について情報を収集します。

日記には、一時は死去の風説が流れるなど、一進一退する家康の容態が伝えられるなかで、機敏に対応する政景の姿がみられます。

家康は4月17日に亡くなります。



岡本元朝日記

岡本元朝（1661～1712）は、元禄10年に文書改奉行に就任し、前年から開始されていた秋田藩の歴史編纂事業を担当します。同14年には家老に就任しますが、編纂事業の中心人物として活躍を続けます。

日記は全64冊で、元禄8年から正徳2年までの18年間の内容が記されています。また、別に「元朝日記抄」として吉部・凶部・軍部など記載内容ごとに分類された記録も編纂されています。

日記には、編纂事業をはじめ、家老として秋田藩の政治や財政の問題に取り組む元朝の姿が記されています。また、柳沢吉保や荻原重秀など当時幕府で活躍した人物の名前や、赤穂事件に関する記述もみられます。



和暦	西暦	岡本元朝の略歴	秋田・国内のできごと
寛文元	1661	誕生（1歳）	
寛文2	1662	家督相続（2歳）	
寛文11	1671	出仕（11歳）	
元禄元	1688		柳沢吉保、側用人就任
元禄4	1691	御相手番に就任（31歳）	
元禄8	1695		荻原重秀、元禄小判発行
元禄9	1696		秋田藩、藩士に文書提出命令
元禄10	1697	文書改奉行に就任（37歳）	
元禄14	1701	家老に就任（41歳）	浅野内匠頭刃傷事件
元禄15	1702		吉良邸討入事件
元禄16	1703		佐竹義処死去
宝永元	1704	利根川・荒川普請を担当（44歳）	
宝永4	1707	角間川給人支配を担当（47歳）	
宝永6	1709	編纂事業の論功行賞（49歳）	
正徳元	1711	知行2,000石となる（51歳）	
正徳2	1712	死去（享年52歳）	



エピソード 赤穂事件

元禄14年（1701）3月14日、江戸城内で吉良義央が赤穂藩主浅野長矩に斬りつけられる事件が起きます。

事件の知らせは、3月25日に江戸から秋田の元朝のもとにも届きます。城内での刃傷の場面の描写や、当時の吉良の評判が記されています。

有名な赤穂事件ですが、同時代の資料が少ないため、元朝日記の記載は非常に注目されます。



石井忠運日記

石井忠運（1717～没年不明）は、享保17年に家督と知行103石を相続します。

郷役銀受取役・台所役・副役などを勤めたのち、宝暦13年に秋田藩の財政を担当する本方奉行に就任します。江戸や大坂にも派遣され、廻米や廻銅といった重要な業務などにたずさわります。

日記は全18冊で、宝暦7年から天明7年まで31年間の内容が記されています。

当時の秋田藩は、宝暦8年に藩主義明が死去、わずか11歳の義敦が藩主を相続したばかりでした。また、藩札の流通混乱や米価下落の影響による財政危機にありました。

日記には、秋田・江戸・大坂など各地で財政問題に取り組む忠運の活躍が記されています。



和暦	西暦	石井忠運の略歴	秋田・国内のできごと
享保 2	1717	誕生（1歳）	
享保14	1729	出仕（13歳）	
享保17	1732	家督相続（16歳）	
寛延 元	1748	台所役に就任（32歳）	
宝暦 7	1757		銀札事件（秋田騒動） 幕府国目付、秋田来訪
宝暦 9	1759	副役に就任（43歳）	
宝暦13	1763	本方奉行に就任（47歳）	
明和 2	1765	江戸に3年間勤務（49歳）	
明和 3	1766		大坂に銅座設置 佐竹義敦婚礼
明和 4	1767		
明和 6	1769	大坂・京都に4年間勤務（53歳）	
安永 2	1773		平賀源内、秋田来訪
安永 4	1775	本方奉行を退職（59歳）	
天明 5	1785	閑居暇願、家督譲渡（69歳）	佐竹義敦死去

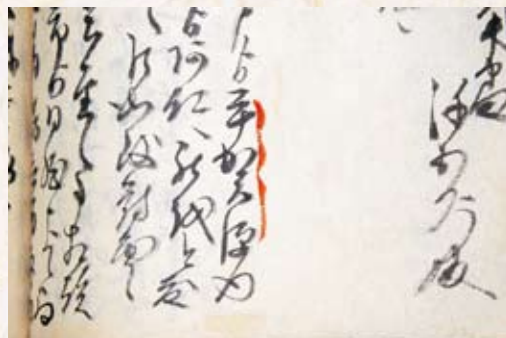
日記記載期間

エピソード 平賀源内、秋田へ

安永2年（1773）7月、平賀源内が秋田藩を訪れて、院内・阿仁などの鉱山に足を運びます。

同行者は9月に久保田に戻りますが、源内は沼館村に滞在し、1ヶ月遅れて久保田に現れます。

予定と異なる源内の行動に苦勞して対応する藩役人の様子や、のちに源内を追って出国する小田野直武（武助）の名前が日記に記されています。



野上陳令日記

野上陳令（1774～1846）は、寛政7年に江戸勤学を命じられ、同10年まで江戸で儒学を学びます。帰国後、享和元年に父親の病死にともない家督と40石余の知行を相続し、同年、学館教授として藩校に勤務します。

財用吟味役や副役として能代に勤務するなど、さまざまな役職を歴任したのち、天保4年には藩校明德館の校長にあたる祭酒に就任します。厳しい財政事情のなか、人材育成の拠点である藩校の充実に力を尽くす姿を日記からうかがうことができます。

日記は全40冊で、寛政6年から弘化3年まで53年間の内容が記されています。弘化3年の2月26日に陳令は亡くなりますが、前日25日まで自筆の記録が残されています。



和暦	西暦	野上陳令の略歴	秋田・国内のできごと
安永 3	1774	誕生（1歳）	
寛政 元	1789		秋田藩校設立
寛政 7	1795	3年間の江戸勤学（22歳）	
享和 元	1801	家督相続、学館教授に就任（28歳）	
文化 元	1804		鳥海地震、象潟隆起
文化 4	1807		秋田藩、箱館出兵
文化 6	1809	財用吟味役に就任、能代在番（36歳）	
文化 8	1811	銅山方吟味役に就任（38歳）	藩校を明德館と改称
文化11	1814	副役に就任、能代方御用を兼務（41歳）	
文化12	1815	評定方奉行に就任（42歳）	佐竹義和死去
文政 4	1821	御国目付衆御用を担当（48歳）	
文政 5	1822	学館文学に就任（49歳）	
天保 4	1833	評定奉行・学館祭酒に就任（60歳）	
天保 5	1834	私塾興進堂を開く（61歳）	
天保 9	1838		明德館焼失
弘化 3	1846	死去（享年73歳）	

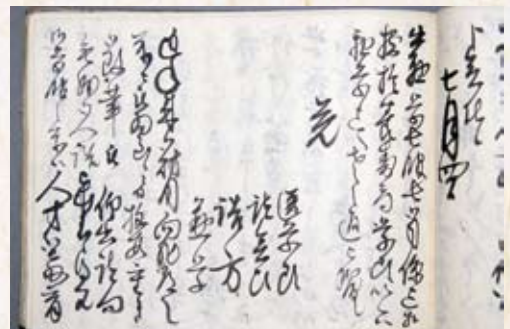
日記記載期間

エピソード 藩校 明德館

秋田藩の藩校は、藩主義和のもとで寛政元年（1789）に着工され、翌年校舎が落成します。文化8年（1811）には明德館と改称されます。

陳令が祭酒となった天保期には、秋田藩の財政は逼迫し、経費節減や人員整理が随所で進行していました。

明德館も対象のひとつでしたが、人材育成の拠点であるとして、陳令のもと従来の体制が維持されました。



湊国季日記

湊国季（生年不明～1859）は、天保2年から郡奉行に就任します。雄勝郡・平鹿郡・仙北郡を担当し、毎年実際に現地に足を運びました。「御用留書」として残された回在の記録は、江戸時代後期における秋田の農村の実態をあらわす貴重な資料といえます。

また天保14年の郡奉行退任後も、「私用雑記」として日常生活を日記に書き続けました。

日記は全111冊で、文政4年から安政5年まで38年間の内容が記されています。

湊家は三春藩主秋田氏の遠縁にあたり、国季のときに交際が回復して、年賀状の交換などが始まります。当館には湊家に伝来された資料1,280点が「湊文書」として寄託され、江戸後期から明治期の湊家について知ることができます。



和暦	西暦	湊国季の略歴	秋田・国内のできごと
		(生年不明)	
文政 4	1821	御厩請払役に就任	
文政 7	1824	郡方見回役加勢に就任	
文政10	1827	郡方吟味役に就任	
天保 元	1830	副役に就任、御刑罪御用係を担当	
天保 2	1831	郡奉行に就任	
天保 4	1833		天保の飢饉 北浦一揆
天保 5	1834	勘定奉行兼郡奉行に就任	
天保 6	1835	改革御用係を担当	
天保 7	1836	横手財用方係を担当	
天保14	1843	勘定奉行・郡奉行を退任	水野忠邦、老中罷免
安政 3	1856	息子興季、蝦夷地に出立	秋田藩、蝦夷地出兵
安政 6	1859	死去	

エピソード 引退後の日記

国季は、引退後の日常生活を「私用雑記」と称して書き続けました。

今回、弘化2年（1845）～安政5年（1858）の22冊を新たに確認しました。現役時代の書類の裏面を利用した日記で、秋田藩の書類管理の手がかりになる資料でもあります。

日記には、郡方役人や近隣武士との交際、知行地の開発など、晩年の国季の生活が記されています。



涉江和光日記

しづ え まさ みつ
 渋江和光（1791～1843）は、享和3年に渋江家の分流から渋江宗家しづ え まさの養子となり、家督を相続しました。翌年、出仕にともない、藩主義和しづ え まさから「和」の一字を拝領し、和光と名のります。文化4年から天保8年までの間、三度にわたり家老に次ぐ役職である御相手番お あい て ばんを勤めました。

渋江家は、佐竹^{よしのぶ}義宣の入部以来、多くの家老を輩出し、また領内^{かりわ}の重要拠点のひとつ刈和野の支配を担当します。

日記は全98冊からなり、最初の妻が亡くなった直後の文化11年から、息子に家督を譲り隠居した後の天保10年までの26年間にわたり記されています。

日常生活の記事が多く、武芸・学問などを通じた交流をはじめ、当時の秋田藩上級武士の衣・食・住に関するさまざまな記録をみる
ことができます。



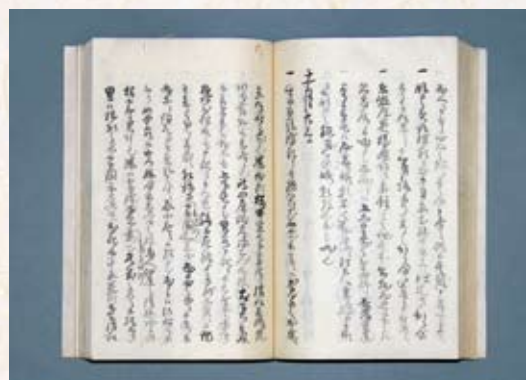
和暦	西暦	渋江和光の略歴	秋田・国内のできごと
寛政 3	1791	誕生（1歳）	
寛政 4	1792		ラクスマン、根室来航
享和 3	1803	家督相続（13歳）	
文化 元	1804	出仕（14歳）	鳥海地震、象潟隆起
文化 4	1807	御相手番に就任（17歳）	
文化10	1813	妻死去（23歳）	
文化12	1815	再婚（25歳）	
文政 4	1821	御相手番御免（31歳）	国典類抄完成（文政2頃）
文政 5	1822	大病（32歳）	
文政10	1827	御相手番に再任（37歳）	
文政11	1828	御相手番御免（38歳）	
天保 3	1832	御相手番に再任（42歳）	
天保 5	1834		北浦一揆
天保 8	1837	御相手番を退職、家督譲渡（47歳）	大塩の乱
天保14	1843	死去（享年53歳）	

エピソード 息子貞治の成長

和光の日記には、^{はしぞめ}箸初などの祝事をはじめ、婚礼や家督相続など嫡子^{ていじ}貞治の人生儀礼が記されています。

また、はじめて出仕する息子^{しゅっし}を心配したり、孫の名前に細かい注文をつける父親和光の姿もみられます。

貞治とは、のちに戊辰戦争で活躍する家老ひろみつ渋江厚光のことです。この日記は、幕末の家老の前半生がわかる興味深い資料でもあります。



宇都宮孟綱日記

宇都宮孟綱（1801～1891）は、天保12年に家老に就任し、藩政の中心で活躍しました。孟綱の祖父・孫綱、父・重綱も家老を勤めており、三代続いての家老就任でした。

日記は全127冊で、天保12年の家老就任前日から、明治元年末まで28年間の内容が記されています。この時期は、孟綱が家老として活躍する時期とほぼ一致します。

当時の秋田藩は、藩主義厚・義睦が相次いで亡くなるなど政治的に不安定な時期にありました。

日記からは、ペリー来航、大政奉還、戊辰戦争などの重要な局面に対して、懸命に取り組む孟綱の姿とともに、幕末期の秋田藩の動向を詳細にうかがうことができます。



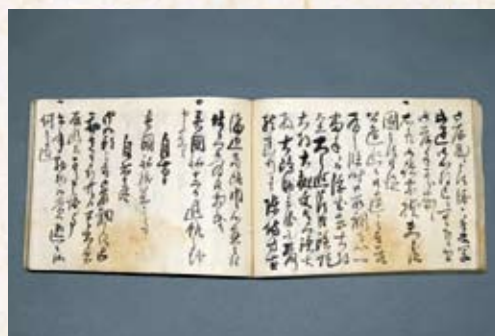
和暦	西暦	宇都宮孟綱の略歴	秋田・国内のできごと
享和元	1801	誕生（1歳）	
文化10 文政 8	1813 1825	出仕（13歳） 御相手番に就任（25歳）	
天保12 弘化 3 嘉永 2 嘉永 6 安政 4 安政 5 文久 2 慶応 2 明治元	1841 1846 1849 1853 1857 1858 1862 1866 1868	家老に就任（41歳） 1年間の江戸勤務となる（58歳） 藩主入京に先立ち上京（62歳） 家老加談となる（66歳） 家老加談を退職（68歳）	佐竹義厚死去 幕府国目付、秋田来訪 ペリー来航 佐竹義睦死去 日米修好通商条約調印
明治24	1891	死去（享年91歳）	戊辰戦争

エピソード ペリー来航

嘉永6年（1853）6月3日、アメリカのペリー率いる黒船が、浦賀沖に来航しました。この情報は江戸から秋田にも伝えられます。

日記には、幕府から連絡を受けた江戸藩邸で、すぐに臨時の警備体制が整えられた様子が記されています。

また同年中には、将軍家慶の死去、藩主義睦の秋田入部など、重要な連絡が孟綱のもとに相次ぎます。



戸村義效日記

戸村義效（1818～1880）は、文久3年に家老に就任すると、京都に派遣されて禁門の変に遭遇します。また、慶応4（明治元）年に奥羽列藩同盟の白石会議に参加して、同盟の盟約に調印するなど、幕末期における秋田藩の重要局面に多く関わっています。

日記は全30冊で、主に文久3年から慶応3年までの内容が記されています。

戸村家は、江戸時代初期から代々横手の支配を担当し、また多くの家老を輩出した佐竹一門の家柄です。

当館には、戸村家の旧蔵資料3,423点が「戸村文庫」として所蔵されています。義效の日記や大量の書状類をはじめ、幕末から維新时期にかけての貴重な記録が豊富に残されています。



和暦	西暦	戸村義效の略歴	秋田・国内のできごと
文政 元	1818	誕生（1歳）	
文政11	1828	家督相続、横手城代となる（11歳）	
弘化 3	1846		佐竹義厚死去
安政 4	1857		佐竹義睦死去
文久 3	1863	家老に就任、上京、参内（46歳）	日記期間 禁門の変 大政奉還 戊辰戦争
元治 元	1864	禁門の変につき出動、下国（47歳）	
慶応 2	1866	江戸在番、重事参与となる（49歳）	
慶応 3	1867		
明治 元	1868	白石会議に参加（51歳）	
明治 3	1870	家督譲渡（53歳）	
明治13	1880	死去（享年63歳）	

エピソード 遭遇、禁門の変

元治元年（1864）7月19日、京都に侵攻した長州藩の勢力が、薩摩藩・会津藩勢力と衝突します。禁門の変（蛤御門の変）と呼ばれる事件です。

京都滞在中の義效は、明け方に御所の方角から大砲・小砲が連発される音を耳にします。秋田藩士も警衛のために数々の公家屋敷に駆けつけますが、混乱のなかで、どこからも警衛の要請が得られず、帰途につきます。



岡忠昌日記

岡忠昌（1817～1893）は、藩主就任前の義睦の側小姓にはじまり、納戸役、膳番として活躍しました。江戸と秋田を何度も往復するなど、藩主の側近として多くの職務に関わります。続く義堯のもとでも膳番として活躍します。

明治時代になっても、新たな政治体制のもと知家事（のち家令）を勤め、さらに明治8年からは佐竹家家扶として、佐竹家の家政を取り仕切る役割を勤めました。

日記は全73冊で、天保13年から明治8年までの34年間の内容が記されています。

当館には、岡家の旧蔵資料1,761点が「岡文庫」として所蔵され、300通を超える忠昌宛ての書状をはじめ、幕末から維新期にかけての貴重な記録が豊富に残されています。



和暦	西暦	岡忠昌の略歴	秋田・国内のできごと
文化14	1817	誕生（1歳）	
天保13 弘化 3	1842 1846	義睦の側小姓に就任（26歳）	佐竹義厚死去
嘉永 5 安政 2 安政 3 安政 4 安政 6	1852 1855 1856 1857 1859	納戸役に就任（36歳） 義睦の入部に従い秋田に下国（39歳） 義睦の前髪御用係を担当（40歳） 膳番に就任（41歳） 義堯の入部御用係を担当（43歳）	佐竹義睦死去
明治 元 明治 2 明治 5 明治 8	1868 1869 1872 1875	知家事・佐竹家家令に就任（53歳） 家督譲渡（56歳） 佐竹家家扶に就任（59歳）	戊辰戦争 版籍奉還 秋田県庁開庁
明治26	1893	死去（享年77歳）	

日記記載期間

エピソード 秋田藩の戊辰戦争

慶応4年（1868）正月、鳥羽・伏見の戦いを皮切りに、新政府方と旧幕府方による戊辰戦争が始まります。

7月、秋田藩は藩主義堯のもとで勤王の方針を決めて新政府方につきます。この後、9月まで庄内藩や南部藩を相手に戦うことになります。

勤王の方針が定まる前後の様子を記した忠昌の日記は、詳細が不明なこの時期に関する貴重な記録です。



展示資料一覧

資料番号	資料名	和暦
A312-130-3-1	梅津政景日記 巻3上 日帳 慶長19年	慶長19
A312-130-5	梅津政景日記 巻5 日帳 元和2年	元和2
吉田77	梅津憲忠肖像	
7-380-6	岡本元朝日記 6 元禄13年7月～12月	元禄13
7-380-7	岡本元朝日記 7 元禄14年1月～9月	元禄14
吉田78-1	錦絵 仮名手本忠臣蔵 大序	
吉田78-10	錦絵 仮名手本忠臣蔵 十一段目	
AS209-164	国典類抄目録	
A312-22-16	石井忠運日記 16 安永2年	安永2
県C-278	大坂御蔵屋敷図	文化14
25-28-2	御評定方奉行御用留書 2 文化14年～文政元年 野上陳令	文化14～文政元
25-31-2	祭酒御用日記 2 天保7年～8年 野上陳令	天保7～8
25-32-1	町方御用留書 1 文化13年～14年 野上陳令	文化13～14
県C-123-2	能代町之絵図	
湊1005-2	私用雑記	嘉永7
湊1008	私用雑記	安政3
湊41	湊生名并花押	天保5
岡393	松前東西蝦夷地並唐太縮図（諸家御領色分）写	
A289-319-87	渋江和光日記 87 天保8年1月～3月	天保8
A289-319-90	渋江和光日記 90 天保8年10月～12月	天保8
県C-91	仙北郡刈和野一圓之図	享保13
AS312-45-56	御用略日記 宇都宮孟綱（嘉永6年6月～7月）	嘉永6
県C-195-1	秋田御城絵図	嘉永2
AS312-55-2	自筆来書留付内書其外異事	嘉永6
AT312-640	元治元甲子七月日記	元治元
岡79	嘉永改正新選京絵図	嘉永5
岡422-3	公私日記	慶応4
岡429	公私日記	明治8
岡1343	営中絵図 全	
A312-122-17	梅津忠宴日記	延宝2
18-158	五十五日記	
25-121-4	初岡綱正日記 4	明治2
25-42-2	教授並教授日記 2 嘉永6年～7年 野上陳孝	嘉永6～7

平成20年度 秋田県公文書館企画展

「武士の日記を読む」パンフレット

平成20年7月11日 発行

編集 秋田県公文書館

発行 秋田県

Akita Prefectural Archives

秋田県公文書館

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

TEL 018 (866) 8301

FAX 018 (866) 8303

URL <http://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/>

この印刷物は2,000部作成し、印刷の作成経費は1部当たり46.50円です。